

在学生の活躍

シドニー五輪テコンド-58キロ級に出場 樋口清輝さん(経済学部2年)

金メダルの期待を一身に背負ってシドニーに飛び立った樋口清輝さん。9月27日の試合では、残念ながらメダル獲得は実現しなかったが、樋口さんにとってのシドニーは金メダル獲得というゴールではなく、金メダルへのスタート地点になったようだ。



容赦なく押し寄せる数々のプレッシャー

1回戦の対戦相手は、昨年の「世界選抜大会」のチャンピオン、黄志雄選手(台湾)であった。『対戦経験は無く、決勝では当てると思っていましたが、まさか初戦で当たると思っていませんでした』と一瞬にして大きなプレッシャーがかかった。

はじめてのオリンピック試合会場に足を踏み入れた瞬間、『経験したことのない観客の数、日本チーム応援団の物凄い声援にビックリし顔が真っ青になりました』と、みんなの期待が逆に樋口さんを追い詰めてしまったようだ。それでも試合開始の時間は刻々と迫ってくる。『取り敢えずボ

イントを取らなければ』が頭に浮かんだ。本来樋口さんは左足で技を繰り出すのだが、『安全サイドを考え右足から入ったんです』『相手のカウンターは入るが自分のポイントも入る』と考えた。案の定最初のポイントは相打ちであった。しかし、本来の試合スタイルではなかった樋口さんは、『相手の左フェイントに対して右足を入れようとしたら中途半端になり、逆に1ポイント取られてしまったんです』と相手にリードを許してしまった。リードされたのが焦りにつながり焦れば焦るほど相手のペースにのまれてしまった。そして無情にも試合終了の合図。結果は1対6で敗れてしまった。

プレッシャーに負けない自分作り

何が悔しいかというところ『100%の力が出せなかったことが悔しいですよ』と樋口さんは省みる。『大きな舞台で大きな失敗をしましたが、10代の最後に良い経験をしました』と『緊張とプレッシャーに負けない自分作り』という新たなテーマを経験から学んだようだ。

『結果は残せませんでした。10代の良い締めくくりとなりました。今後、2004年と2008年の2回のオリンピック出場を目指して頑張りたいです。先ずはアテネに向けて期待に応えられるよう頑張ります。応援ありがとうございます』とお世話になった皆さんに感謝の気持ちを語ってくれた。

樋口清輝さん 青少年賞を受賞

シドニーオリンピックに出場した樋口清輝さんに、青少年育成大阪府民会議より、青少年賞が授与された。11月11日、大阪府立青少年会館で、青少年育成大阪府民会議会長の青藤(太田)房江大阪府知事より、賞状と記念品が授与された。

最近のクラブ戦績

ソフトボール部

関西学生ソフトボール連盟秋季リーグ戦
男子1部 優勝 3勝1敗1分、勝ち点10
(5季ぶり2度目)

硬式野球部

阪神大学野球秋季リーグ戦
1部 4位 5勝7敗

卓球部

関西学生卓球秋季リーグ戦
男子1部 4位 2勝3敗
女子2部 1位 4勝1敗 入替戦敗退2部残留

バスケットボール部

関西学生バスケットボール秋季リーグ戦
男子2部B 3勝4敗

軟式野球部

西部大学軟式野球連盟秋季リーグ戦
2部優勝 8勝全勝 1部昇格

剣道部

第2回西日本地区剣道優勝大会

一般団体展開競技1位

吉村敬男(経1年) 級位形競技2位
神前英男(法4年) 一般男子法形競技ベスト8

サッカー部

関西学生サッカー連盟秋季リーグ戦
2部B 8位 2勝4敗3分、入替戦で3部降格

空手道部

第43回全関西大学空手道選手権大会
男子団体組手 3位
女子団体組手 ベスト8

弓道部

全日本学生弓道選手権大会
男子団体予選敗退、女子団体予選敗退
土屋直行(法3年) 男子個人決勝3本目敗退

陸上競技部

第53回西日本学生陸上競技対校選手権大会
中田滋夫(経4年) 男子800m準決勝敗退1'56"28

体操競技部

第54回全日本学生体操競技選手権大会

樋口 敦真(経4年)個人総合60位

柔道部

第19回関西学生柔道体重別選手権大会・女子体重別選手権大会
前田竜也(法2年) 男子 - 60kg ベスト16

テコンド-部

第1回女子国際オープンテコンド-選手権大会(ロシア・アゼルバイジャン)
小寺昭子(法3年) 女子黒帯の部フライ級3位
荒井望(法2年) 女子色帯の部バンタム級2回戦進出
2000年度TAEKWONDO GAME2000 - GROND PREX -
荒井望(法2年) 女子 - 49kg 1位
第2回全日本学生テコンド-選手権大会
小寺昭子(法3年) 女子フライ級1位

サンボ部

第26回全日本サンボ選手権大会
塩入浩一郎(経2年) E62kg級3位

バレーボール部

関西学生男子バレーボール連盟秋季リーグ戦
男子2部 3位 6勝4敗
関西女子大学バレーボール連盟秋季リーグ戦
女子2部 5位 3勝4敗

大阪経済法科大学

校友会報

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS AND LAW



司法試験に合格した立石直樹さん
(2000年法学部卒業)

CONTENTS(目次)

校友会NOW	2
校友会支部便り	4
総会報告	6
大学の近況	9
活躍する卒業生	12
卒業生からのメッセージ	14
在学生の活躍	16





大阪経済法科大学校友会 石川・岡山支部設立総会開催

6月24日に開催された「第2回大阪経済法科大学校友会総会」で2000年度事業計画(案)が承認された。事業計画では、昨年度に引き続いて東京都・石川県・岡山県・福岡県で地方支部設立の働きかけを行なうことが示され、早速準備に取り掛かった。

支部作りで最も大切なのは、言うまでも無く地元卒業生の協力者である。しかし、協力者を探し出す頼りとなるのは、「卒業生名簿」しかない。各地方担当者が卒業生名簿と睨めっこしながら的を絞っていく。因みに名簿の数は、東京都で272名(関東地方まで広げると848名)、石川県で304名、岡山県で756名、福岡県で259名である。「良い回答が返ってきますように」と祈りながら受話器を持ち電話作戦開始。しかし、出足から難関に遭遇する。長引く不況下、卒業生達は夜遅くまで仕事をしており、なかなか本人と話しができない。それでも、家族の方の「遅くなっても構わないですから遠慮せず電話ください」の言葉に甘えながら連日連夜電話をする。甲斐あって

本人と話しができる。電話では、現地での支部設立準備相談会への参加と支部設立時の役員就任の協力依頼を行なう。快く引き受けていただいた卒業生、気持ちはあっても仕事の都合などで協力したくてもできない卒業生と様々だが、概ね地方支部設立については好意的であった。

協力者の目途がついた段階で、現地での支部設立準備相談会を開催し、支部設立に向けての具体的な打合せを行なった。役員候補者および支部規約(案)の確定、設立総会日程や卒業生への参加呼びかけなど、地元卒業生の「生きた情報」を参考にしながら準備が進められた。一軒一軒卒業生へ電話するという地道な作業であったが、着実に協力者の輪が広がり、現段階で石川県支部と岡山県支部が新たに産声を上げることができた。残る東京と福岡は、継続して働きかけている段階で、次号ではその支部の姿を紹介できるよう努力したい。

岡山支部設立総会 —ホテルニューオカヤマ—



支部長 山田 博文

昨年の愛知・香川・広島・沖縄の地方支部設立に続き、本年9月2日(土)午後3時30分より、ホテルニューオカヤマにて岡山支部設立総会が開催された。当日は、約20名の校友と校友会本部から伴井会長を始め、澤学長補佐(副会長)、他2名が出席した。

はじめに、伴井会長が挨拶し、校友会設立に至る経緯と今年度の校友会事業計画等について報告された。続いて、校友会事務局より、岡山県支部設立の趣旨と岡山支部規約(案)及び支部役員(案)について提案がなされ、出席者全員の賛同を得て承認された。

最後に、総会の締めくくりとして、初代岡山支部長の山田博文氏(2期生)より挨拶があり、「岡山支部会員相互の親睦と連携を深め、母校の発展に寄与できるよう頑張っていきたい。」との抱負が述べられ、全員の拍手をもって総会を終了。ここに、めでたく校友会岡山支部が設立された。

岡山支部 役員名簿

支部長	山田 博文(2期生)
副支部長	津島 講一(4期生)
副支部長	緒方 智(6期生)
副支部長	中田 真平(13期生)
幹事	花田 行玄(5期生)
幹事	常井 暁(19期生)
幹事	河崎 美都(20期生)
会計監査	谷 仁志(13期生)



石川支部設立総会 —金沢都ホテル—

校友会石川支部の設立総会が開催された。石川県は日本地図を見てのとおり能登半島から南北に広がっており、卒業生も北は珠洲市から南は加賀市・山中町・白峰村まで点在している。同じ県内の金沢市に出かけようと思っても往復で6時間かかる地域もある。

そんな地理的条件を抱えながらも、4名の卒業生が集まってくれた。校友会からは安田公治副会長(2期生)、大学からは岩村学生部長をはじめ3名の教職員が出席した。残念ながら、8月5日に金沢市で開催した準備相談会に出席いただいた4名の卒業生が仕事の都合で急遽出席できなくなった。総会では、支部規約案は原案どおり、支部役員案は当日出席された2名の卒業生が追加され承認された。初代支部長には松井信司さん(6期生)が選出された。総会后、懇親を深めながら早速今後の支部活動についての話で盛り上がった。

石川県の校友の皆さん!支部役員会で素敵な企画をつくり、一日もはやくお会いできるよう頑張ります。

石川支部 役員名簿

支部長	松井 信司(6期生)
副支部長	藤田 哲文(6期生)
副支部長	山下 浩希(10期生)
幹事	坂下 敏雄(3期生)
幹事	横井 英二(10期生)
幹事	塩谷 修一(14期生)
幹事	鷲見 昌規(25期生)
会計監査	松本 裕昭(24期生)



校友会ホームページ

大学のサイトの中に校友会のホームページが開設されている。大学への連絡フォームも利用できる。

<http://www.keiho-u.ac.jp/contents/sotsugyosei/kouyu.html>

Eメール: kouyu@keiho-u.ac.jp

支部長 メッセージ

松井 信司



平成12年9月2日(土)、金沢市の金沢都ホテルにて校友会石川支部設立総会が開催されました。私が卒業して、もう20年過ぎ正直な話、まさか、石川支部が設立されるとは思ってもみませんでした。設立総会では、大学の先生・職員の方々ご参加のもと、校友会の意義・目的について説明を受けまして、やはりこの年齢になって、理解できるようになったと思っていますし、今後の大学発展を考えると校友会を、基盤として活動することを改めて実感しています。石川県出身の卒業生は、約300名程ですが実質県外で働いている方も、若干名おられます。一人でも多くの県内卒業生が、校友会総会に参加頂きたく、皆様のご協力をお願いいたします。最後になりますが、最近楽しみに、クラブの試合結果をインターネットで気にかけて見えています。在学生の皆様、勉強にクラブに頑張ってください。陰ながら応援しています。

校友会支部便り

支部報告

AICHI

愛知支部総会報告 9/16



1999年10月に結成された愛知支部第2回支部総会が9月16日(土)名古屋市内の「国際サロン」で7名の卒業生が集い行われた。まず、6月に行われた校友会総会(大阪開催)での決議報告がなされた。今回の支部総会議事としては、今後の支部活動及び校友会事業に対する要望などを取り上げ、各支部での組織の拡大や各種行事の企画などの意見が出され、今後取り組んで行く方向で再度確認された。

総会後には、和やかな雰囲気での懇親パーティーが行われ、卒業生・父母、教職員などが現在の教育環境や思い出話等の会話を交えながら、今後のより一層の校友会事業の発展を願った。

支部報告

KAGAWA

香川支部総会報告 9/30

1年ぶりに香川県在住の校友が高松市内で再会した。第2回総会は「マリンパレスさぬき」で開催され、10名の校友が参加した。今回の総会には、女性校友の参加、お父さんの代

理出席、夫人同伴での出席など、設立総会とは一味違った雰囲気の中、進行された。

総会は、石塚央支部長(6期)の開会挨拶と伊奈健二経済学部長の大学代表挨拶で始まった。議事に入り、冒頭支部長から支部活動参加・協力者の拡大 家族の方にも参加していただけるような支部活動 女性校友の参加が増えるような支部活動、にしていきたいとの考えが述べられ、引き続き「今後の支部活動について」の活発な意見交換が行われた。参加者からは、「折角の機会なので在校生の父母にも総会の案内を送付し、出席していただいてもいいのでは」「夏休み期間を活用して、卒業生と在学生在が集う地元懇談会を開催し、就職情報や学生生活への先輩としてのアドバイスを送れば良いのではないかな」など、後輩(在校生)に対してどのような役割が果たせるのかという視点からの意見も多く出された。



総会終了後の懇親会では、総会で出された意見を具体化し実現させるためにも、支部役員会を早急に開催し、具体的な企画案を詰める必要があるとの意見でまとめ、現在石塚支部長がその準備を進めている。昨年の誕生から1歳の誕生日を迎えた香川支部は、総会参加者から出された様々なアイデアを取り纏めながら、支部長の目標である、「他の支部に負けない特色ある支部作り」に向けて、一歩前に進むための努力が行なわれている。

支部報告

OKINAWA

沖縄支部総会報告 10/28



10月28日(土)、ロワジュールホテルオキナワにて、第2回沖縄支部総会が開催された。『大阪経済法科大学校友会沖縄支部』の存在をできるだけ多くの人目に触れさせたいという沖縄支部長の熱い思いから、会場を那覇市ポートエリアに建つ大型シティホテルに選んだという。

当日は、15名の校友と大学から岩村学生部長・高岡学生課長補佐が出席。終始和やかな雰囲気の中で議事が進められた。大学の近況・6月開催の校友会総会について一通りの報告があった後、硬い話はここまでと直ぐに懇親会に移った。懇親会では、出席者から学生時代の思い出や近況などを紹介。今後の沖縄支部の活動やあり方について話題が集中した。今後は幹事会を中心に企画をまとめ、会員相互の親睦をより一層深めていきたいとの支部長の決意表明をもって本会を終了。全員で二次会(ネオン街)へと場所を移した。

支部報告

HIROSHIMA

支部長メッセージ 柘田 博昭

昨年10月に校友会広島支部が発足し、早や1年が過ぎました。その間、支部活動として特に報告すべき事はありませんでした。

そこで、今後の指針としては、定例幹事会の開催(年2~3回)、定期支部総会(年1回)、会員・家族参加のレクリエーションの実施等、手近なことから実行できればと考えております。

また、校友会会員に対してアンケートを実施して、現在の大学に望む事や将来期待することなどを建設的かつ前向きな意見として、地方からの声を発し、母校がより素晴らしい大学へ発展していく一助となればとも思っております。

現況報告というより、将来展望になってしまいましたが、是非近々「全国支部長会」を開催していただき、今後の各支部活動に関する意見交換も必要と思います。

第2回広島支部総会開催(11/25) 広島支部総会に参加して

常任幹事 北垣義弘(7期生)

校友会会員の皆さんお元気ですか。

お蔭様まで大阪経済法科大学校友会も設立以来2年目を迎えることができました。支部の設立におきましても昨年香川県・沖縄県・愛媛県・広島県の4支部が無事スタートしました。その中で、先日私は2回目の開催となる広島支部総会に出席しましたので報告させていただきます。

広島支部は、会員数1246名で幅広い地域を柘田支部長を中心とした15名の役員で構成されています。今回出席した目的は、6月24日に大阪で行なわれた校友会総会での議事内容の報告、今後の広島支部活動及び校友会事業に対する要望について活発な話し合いが行なわれました。少人数ではありましたが3期生の方から今年卒業した27期生の方まで幅広く参加していただき話しができたこととても喜ばしかったです。特にその中で、私が強く感じたのは広島支部のアットホームな雰囲気、母校に対する熱い思いを実感しました。そして広島支部の目標のひとつとして、中国地区の中心になれる拠点活動を実現させたいという熱意を感じました。

今回大阪に戻って私自身も会員の一人一人手を取りあって広島に負けない組織作りをやり、来る21世紀に躍進できる校友会の土台作り会員の皆さんとともに努めたいと思いました。

大阪経済法科大学校友会総会報告

第2回大阪経済法科大学 校友会総会・懇親会を開催



6月24日(土)、卒業生、在校生、教職員など約200名の参加により、「ザ・リッツカールトン大阪」において、第2回大阪経済法科大学校友会総会ならびに懇親会が行われた。今回の総会は、

受付、司会などの役割を卒業生たちが担い、坂本誠常任幹事(1977年度卒業)の司会で進行された。

開会の挨拶で伴井敬司会長(1974年度卒業)は、1年間の校友会活動を振り返りながら、「校友の方々の実際の活動の場は各支部であり、支部が活性化することによって校友会全体の活動も活性化する。」と支部活動の大切さを述べられた。

続いて、校友会顧問である中西健一学長は、校友たちとの1年ぶりの再会を祝すとともに、「今年新たに928名の学生が卒業し、新しく校友の仲間入りをいたしました。」と報告された。また、来年創立30周年を迎えるにあたっての大学改革事業についても報告をされた。

議事進行に際しては、議長として北垣義弘常任幹事(1980年度卒業)、村下博幹事(法学部教授)を選出し、校友会支部規程 校友会会費の納入に関する申合せの一部改正について 1999年度事業報告及び収支決算書について 2000年度事業計画及び収支予算書について、それぞれ承認され、特に、2000年度事業計画では、新たに東京都・石川県・岡山県・福岡県で地方支部設立の働きかけを行うことが報告された。

総会終了後、パーティー会場へと場所を移し、柴田剛常任幹事(1987年度卒業)の司会で進められた懇親会では、校友の再会を祝って盛大に「鏡割り」が行われ、同級生同士の輪、先輩後輩の輪、卒業生と教員の輪、校友の二世たちの輪、とあちらこちらで再会を喜び合う和やかな懇談の光景が見られた。

2000年度事業計画

- 1 校友会総会の開催
2000年6月24日(土)午後6時より
- 2 校友会支部の設立
東京都・石川県・岡山県・福岡県で地方支部設立の働きかけを行う。
- 3 校友会支部総会の開催
既に支部が設立されている地区(香川県・沖縄県・愛知県・広島県)について、支部総会の開催を支援する。
- 4 校友会報の発行
校友会報第2号・校友会報第3号
- 5 校友会名簿の発行準備
発刊予定 2001年5月中旬

<2000年度収支予算書>

2000年4月 1日から
2001年3月31日まで

収入の部		(単 位:円)
項 目	本年度予算額	備 考
補助金	13,937,000	2000年度校友会予算については、母校・大阪経済法科大学からの補助金で賚られます。
収入の部合計	13,937,000	
支出の部		
項 目	本年度予算額	備 考
(1)会議費		
総会	2,500,000	総会及び懇親会経費
幹事会	556,000	幹事会(年4回)会場費等経費
支部の設立	720,000	4地区の支部設立総会経費
支部総会	480,000	4地区の支部総会経費
(2)印刷製本費		
校友会報(2回)	3,000,000	校友会報第2号・第3号の発行
会報発送用封筒	650,000	
総会案内状	110,000	総会・支部総会案内状
返信用ハガキ	86,000	総会・支部総会返信用ハガキ
(3)渉外費	500,000	支部設立の打合せ費用・その他
(4)通信費		
会報送達費等	4,775,000	校友会報第2号・第3号の発送
会報送交代行費	440,000	業者委託費用
(5)旅費交通費	120,000	役員・支部総会出席旅費
支出の部合計	13,937,000	

<校友会会費の納入に関する申合せの一部改正について>

(1)改正の目的

2001年度以降の入学生の初年度納付金の負担増軽減のため、校友会会費の納入に関する申合せを一部改正する。

(2)改正の内容

準会員の会費の納入方法の一部変更。

(3)改正

改 正(後)	改 正(前)
校友会会費の納入に関する申合せ 1999年6月26日	校友会会費の納入に関する申合せ 1999年6月26日
総会承認	総会承認
1 大阪経済法科大学校友会会費の納入については、当面この申合せによる。	1 大阪経済法科大学校友会会費の納入については、当面この申合せによる。
2 正会員は、2001年4月1日以降に会費を納入するものとする。	2 正会員は、2001年4月1日以降に会費を納入するものとする。
3 準会員の会費の納入は、次のとおりとする。	3 準会員の会費の納入は、次のとおりとする。
(1)2001年度以降の入学生(編入生を除く。)については、入学手続時から4年生の秋学期学費納付時まで、会費20,000円を8回に分けて、2,500円づつ納入する。	(1)2001年度以降の入学生については、入学手続時に納入する。
(2)2001年4月1日現在の在学学生については、卒業時に納入する。但し、2001年度入学生(編入生を除く。)を除く。	(2)2001年4月1日現在の在学学生については、卒業時に納入する。

附則 この申合せは、2000年6月17日から実施する。

学長挨拶 大阪経済法科大学 学長 中西健一



昨年の設立総会を経て1年が経過しましたが、今年の3月には924名が卒業し、校友の仲間入りをしました。本日は、多数の方々のご参集、誠にありがとうございました。

実践的基礎能力を備え、自主的創造的に活躍できる産業人の育成、21世紀のアジア太平洋に開かれた教養豊かな国際人の育成を教育理念に掲げ、この理念に合致した高い教育的付加価値を身に付けた多彩でヒューマンな人材を社会に送り出すことを教育目標として、1971年に開学した我が大阪経済法科大学は、来年すなわち21世紀の最初の年に創立30周年を迎えます。

昨今の大学は、大変厳しい状況に置かれ、学生の学力低下や中学高校並みの不登校問題も起こっております。また、国立大学・公立大学は独立行政法人化という組織の根本的な変更の問題に直面しています。しかし、深刻なのは私立大学、それも歴史の比較的新しい中小私学です。大阪経済法科大学もこのカテゴリーの中に入り、18歳人口の減少に伴う志願者数の大幅な減少により、サバイバル競争を余儀なくされ、安閑としていては存立さえ覚束ない状況に追い込まれかねません。昨年の春は短期大学の約半数、4年制大学の約2割が定員割れでした。今年はまだ結果が纏まっていませんが、定員割れは短大で7割、大学で3割以上にのぼるのではないかとされています。こういった厳しさに勝ち抜き、発展していくためには、たえざる改革により大学の質を高めていく以外に道はありません。

大阪経済法科大学は、来年の30周年に向け九つの改革事業を推進しています。

第一番目は高校から大学への橋渡しにあたる入門教育と基礎・基本科目を重視した力のつく授業を目指す教育改革。二番目は開学以来のモットーである4年間一貫の少人数教育、ゼミ教育を充実強化するという教育改革。第三番目は多様な能力と個性を引き出し、それに応じて学ぶ力を向上させ高い付加価値を生み出す教育改革です。

四番目は高度情報化社会で活躍できるスキル、情報リテラシーを身に付けるため学内にNICEシステムと呼ばれるLANと500台のコンピュータを設置していますが、更に4月からは、ノートパソコン100台を追加して情報教育環境の一層の充実化が図られつつあります。五番目は国際化への対応と国際交流の活性化で、既に世界14カ国・地域、31の大学研究機関と提携し、各種の国際シンポジウム開催、留学生・研究員の交換、ボランティア活動団の派遣など多彩な国際交流を活発に行っています。特に報告すべきはイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの英語圏5大学と中国の北京大学と上海の復旦大学へ約5ヶ月間留学する協定留学制度です。六番目は就職支援活動の強化と各種の資格検定講座の充実、とりわけ司法試験・公認会計士など難関の国家試験に挑戦する学生のための特修講座と卒業後3年間にわたる給費特別研修生制度の充実です。七番目は各種の奨学金制度充実と課外活動強化、キャンパスライフの快適化です。八番目は地域に開かれた大学を目指し、八尾市役所あるいは八尾商工会議所と提携して法学ならびに経済経営学の公開講座の開設に踏み切っていますが、将来は本学が中心となり地域研究センターをつくるという構想も出ています。最後が志願者5000名確保のための入試制度改善と広報活動展開です。以上、この厳しいサバイバルゲームに落ちこぼれないよう、大学は頑張っていくつもりでありますし、また現に頑張っております。

最後に各地方における校友会支部の結成が進むことと、校友各位の今後のご健闘を期待して私の挨拶を終わらせていただきます。

校友会会長挨拶 伴井 敬司（昭和49年度、法学部卒業）



本日は校友会総会開催にあたり、多数のご出席をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年の校友会設立以来の諸会議の資料を、今朝、確認の意味で見えてまいりました。この1年を反省し、また2000年度の抱負を語らせていただき、私の挨拶とさせていただきます。

支部が活性化することによって校友会全体の活動も活発化するという考えのもと、昨年度は、支部結成に向けて努力と支援のもと、沖縄をはじめ、広島、香川、愛知と4支部が結成されました。本年度は東京、石川、岡山、福岡の四つの支部設立の予定であり、各支部の皆様へ設立の協力を呼びかけたく思っており、その折はよろしく願いいたします。

続いて、昨年度設立時に万全を期したつもりで諸規程を制定いたしました。1年の経過とともに不備な点、不明瞭な点が出てまいりました。昨年また本年は、校友会費の徴収はいたしておりませんが、来年度の入学生からは校友会費を徴収することになっており、会計規則等、規則の整備確立を急ぎたく思っております。

また、昨年度は試行錯誤の中で1年間のスケジュール等が確立できませんでした。今年はどの時期にどのような活動を行うのか、年間スケジュールを確立するというのもう一つの課題であると思っています。以上、支部の関係、規程の関係、年間スケジュール等の関係とこの三つが本年度の活動の中心と考えております。

次に、1年を経て取り返しがつかなかった反省がありました。それは卒業式、入学式という校友会をより広く、PRできる2度のチャンスがありながら何も出来なかったことです。卒業式イコール各支部に入会される方が生まれるわけであり、そのような意味から次年度には、卒業式、入学式を校友会行事の中に、なんらかの形で組み込んでいければと思っております。

次に予算に関してであります。会費の徴収は一切行っておらず、年間行事や本日の総会費用等、2000年度の予算も合わせて大学当局の他ならぬご理解、ご支援をいただき、大学予算からの捻出、校友会への寄付により、校友会予算が成立しています。このことをご報告させていただくとともに、大学当局へこの場をおかりして厚くお礼申し上げます。

最後に、総会は年間の事業報告と、次年度の事業計画を会員の皆様に報告させていただき、また運営に関するご意見をいただく場でもあります。ご意見、ご質問等がありましたら遠慮なく発言いただきますようお願いいたします。

反省もしながらではありますが、無事1年経過できましたこと非常に喜ばしく思っております。これも皆様方のご協力のたまものと感謝いたしております。

総会終了後には、懇親会も予定いたしておりますので、時間の許す限り、出来ましたら最後までご参加いただき、会員相互の親睦を深めていただければ、この上ない喜びであります。本日は、どうもありがとうございました。



司法試験に合格

2000年度司法試験の最終合格者が10月13日発表され、本学特別研修生 立石直樹さん(2000年法学部卒業)が合格した。立石さんは昨年、現役4年生で司法試験短答式試験に合格したが、その後の論文式試験では残念ながら合格できなかった。



立石さんは今年度特別研修生として採用され、最終合格を目標として勉学に励んでいた。来年4月より1年6ヶ月、司法修習生として研修し、その後正式に裁判官、検事、弁護士の道に進むことになる。(次回、会報にインタビュー掲載予定)

第2回法学部学生研究発表大会



ゼミやサークルで学生たちが学んだことを発表・討論する場として、法学会主催の「第2回法学部学生研究発表大会」が11月28日開催された。この研究発表大会は、学会員である学生が主体となって行なえる企画を通じて、ゼミの枠を超え学問的な刺激を共有しあう

ことを目的とし、昨年開催されている。今回は、1年生から4年生まで7名の学生が参加し、各々の研究成果を発表した。

審査の結果、優秀賞には「インターネット上において匿名の表現の自由は保障されるべきか」をテーマに発表した4年生の田中寛之さんが選ばれた。佳作には、「学級崩壊の実態と解決策を考える」をテーマに発表した2年生の萩原康訓さんと「大阪経済法科大学のバリアフリーについて」をテーマに発表した1年生の平口憲佑さんが選ばれた。

第29回経法祭 『Do it! ~それぞれができること~』開催

2000年11月2日から11月5日の4日間にわたって第29回経法祭が開催された。『Do it! ~それぞれができること~』をテーマに硬軟とり混ぜた多彩な企画が行われ、多くの来場者を集めた。

2日の前夜祭はあいにくの雨模様となったが、翌日からは晴天が続き、汗ばむくらい天候で地域の家族連れ、在学生がキャンパスを訪れた。今年は2日連続コンサートとなり、11月4日「コブクロ」、11月5日「Northern Bright」の2アーティストのステージが行われた。またはじめてディベートコンテストも開かれ、さまざまな社会問題について論戦が繰り広げられた。



留学生の模擬店紹介



経法祭初のディベートコンテスト

「八尾の企業人が語る経営方針」の公開講義はじまる

国際化・情報化の劇的な構造的変化のもとでの企業経営の実態、そして地方自治体(八尾市)による産業振興政策とその課題についての講義「企業論特講 八尾の企業人が語る経営方針」が、10月6日(金)から秋学期講義として行われており、生涯教育の一環として54名の八尾市民の皆さんが本学学生とともに受講している。

この講義は本学と八尾市を中心とした地域社会との協同事業の一環として具体化された科目で、(株)ミキハウス木村皓一社長をはじめとする8人の八尾市のトップビジネスマンが経営戦略・経営観、八尾市行政マンが産業振興政策などの講演を行う。講演ののちには講演者とコーディネーターである能塚正義経済学部教授とのディスカッション、学生・市民の皆さんとの質疑応答など、毎回活発な授業風景が繰り広げられている。

1回	10/6	企業経営の現状と課題 能塚正義教授 (大阪経済法科大学 経済学部)
2回	10/13	八尾市における商工業の現状 富永峰男氏(八尾市産業振興室長)
3回	10/20	八尾商工会議所の位置と役割 大堀裕央氏(八尾商工会議所 理事)
4回	10/27	創業のこころ 木村皓一氏 (株)ミキハウス 代表取締役社長)
5回	11/10	たかが蝶番それと蝶番 夢は「日本一の町工場」 西村光正氏 (株)ニシムラ 取締役管理部部长)
6回	11/17	職場における笑いの効用 中川政雄氏(八光信用金庫 常務理事)
7回	11/24	開発提案型メーカーとしての戦略 滋野安広氏 (ホシデン株式会社開発研究部担当 取締役 工学博士)
8回	12/8	チャック専業メーカー / 75年の歩み 寺坂雅好氏 (帝国チャック株式会社 取締役企画室長)
9回	12/15	「面白倉庫」セ・ク・ハ・ラ戦略 嶋野義夫氏(家具のやおもく 代表取締役)
10回	12/22	顧客の発展に貢献できる企業をめざして 山田晶一氏(株)山田硝子店 代表取締役)
11回	2001 1/12	八尾市の産業振興について 富永峰男氏(八尾市産業振興室長)
12回	2001 1/19	総括講義 能塚正義教授 (大阪経済法科大学 経済学部)

「大阪経済法科大学地域懇談会」開催



本学を総合的・多角的に紹介する「大阪経済法科大学地域懇談会」が本年度は4カ所に拡大して開催された。各会場では、多数のご父母が出席し、本学の近況、将来構想、学生生活の現状、就職状況の説明ののち、授業への出席、単位の取得状況、成績などについての父母懇談会、就職懇談会が行われた。また、本学教員による文化講演会が開催されたのち、並行して開催されていた校友会地方支部総会の出席者(卒業生)と共に和やかな懇親パーティで締めくくった。

岡山懇談会

9月2日(土)ホテルニューオカヤマ
文化講演会「和歌にみる日本のこころ」
講師 教養部 浅見 緑助教授

金沢懇談会

9月2日(土)金沢都ホテル
文化講演会「子供の権利にこだわって 少年たちは変わったか」
講師 法学部 丹羽 徹助教授

名古屋懇談会

9月16日(土)国際サロン
文化講演会「2000年度民法改正・新しい成年後見制度 だれの助けをかりて老後に自分の財産を管理したらよいのか」
講師 法学部 鈴木直哉助教授

高松懇談会

9月30日(土)マリンパレスさぬき
文化講演会「シルクロード探訪 オアシスと砂漠の文化史」
講師 教養部 華 立教授

2000年度夏期工事 図書館・就職課がリニューアルオープン

この夏、図書館と就職課事務室がリニューアルされた。就職課は受付相談コーナーが大きくなりパソコン台数も増え、照明工事に伴い明るくより開放的な就職課へと変身した。

図書館は全館が明るくなった他、3階が一新され、「情報閲覧室」

となった。4階にあったCD-ROM検索機やAVブースが3階に移設されたほか、新たにパソコン10台を設置し、いつでもインターネットにアクセスできるようになっている。その他、3・5号館の外壁や体育館トレーニングルームも白くきれいになった。



『インターネット・パソコン講習会』

本学情報科学センター主催による社会人対象「インターネット・パソコン講習会」が9月9日(土)を皮切りに10月15日(日)まで計5回にわたって開催され、八尾市・東大阪市在住の市民を中心に延べ800名の社会人が各講習会を受講した。

今回で3年目を迎える「パソコン講習会」は、これまで多くの市民に親しまれ好評を博してきた。親切丁寧で初心者にも分かりやすいという評判が定着し、年を追う毎に応募者が増え、昨年の応募総数702名に対し、本年は予想を大幅に上回る1601名の応募があった。年齢層も下は9歳の小学生から上は80歳の年配の方まで幅広く、また受講動機も自己啓発のためやパソコンへの興味関心といった理由が大半を占め、時代を反映してか年齢・職業に関係なくインターネットや電子メールに対する関心の高さがうかがわれた。

なお、情報科学センターでは去る7月29日、8月24・25日の両日、高校教員を対象としたパソコン講習会も本年度から開催しており、そのほか9月下旬には地元八尾市の北高安小学生を対象に初級パソコン講習会も開催した。

国際学生ボランティア活動 崇実大学校と共同でモンゴルに学生派遣

モンゴルは、今年大雪害に見舞われ全国民が直接または間接的な被害を受けていた。本学は先に協定校であるモンゴル国立大学(所在地:ウランバートル)へ1万ドルの見舞金を届けた。加えて、微力ではあってもモンゴルの人々に対する国際的な援助協力を行いたいと願っていた折り、韓国・崇実大学校の呼びかけにより、2カ国連合でのモンゴル国際学生ボランティア活動が実現した。連合ボランティア活動は、2000年8月2日から13日にかけて実施し、モンゴルで「労働ボランティア」と「医療ボランティア」を行うとともに、活動地域住

民への日韓両国文化紹介公演も披露した。また現地モンゴルの大学生とも作業の協力とともに、3カ国の大学生交流も実現した。

この度のボランティア活動には、大阪経済法科大学から学生8名、引率2名の計10名、崇実大学校からは学生20名、教職員11名、医師、看護婦合計33名が参加し、ウランバートル市郊外2地域で3カ国の学生が主となり協力し、ボランティア活動が行われた。

経法大と崇実大一行は、ウランバートルから30km南の<チグステウ>と、約100km北の<アレグーラント>に行き、現地で調達した資材や道具と持参した医療品をもって作業を行った。労働班は学習室・簡易便所・地域ゴミ収集場建設、児童公園遊具の補修・塗装等を主に行い、医療班は医師のいない地域の住民、老若男女・乳幼児にいたる人々への診療と処方を行った。



モンゴルでも一つのボランティア目標である文化公演は、各地域で1回ずつ行ったが、毎回300人以上の観客を集め、周辺の村からは馬にまたがり羊や牛を追っている途中に立ち寄り見学する人々も多く、さすがにモンゴル草原らしい風景であった。経法大チームと崇実大チームは、日本と韓国の文化を披露しようと、それぞれが渡航前に集中練習を重ねた成果を存分に披露することができ、またモンゴルの人々の歓声や拍手に酔いしれていた。経法大チームは日本文化として「相撲」「歌唱」「河内音頭」「空手」、崇実大チームは韓国文化として「サムルノリ」「テコンドー」「韓国版フォークダンス」等を披露し、最後にはモンゴルの人々も輪になって踊り続けた。経法大チームは、この度のモンゴル渡航に際し、「コクヨ八尾工場」に支援物資協力を要請し、援助を受けた文具類約100kg分を持参、文化公演終了時に学生達の手からモンゴルの子供達・青年達一人一人に挨拶をしながら配布した。



